

京都大学	博士（社会健康医学）	氏 名	千 葉 陽 子
論文題目	Quantitative and qualitative verification of data quality in the childbirth registers of two rural district hospitals in Western Kenya (ケニア西部の2 地方県立病院における分娩台帳データの質の定量的・定性的検証)		
(論文内容の要旨)			
【背景】WHO によると近年でも世界で年間 53 万人以上の妊産婦が死亡し、99%が開発途上国に集中している。国連ミレニアム開発目標（2001 年）では、妊産婦死亡低減のため特に母児の生命に危機的な分娩期の熟練ケアが重要とされており、分娩期記録は出産のプロセスとアウトカムの評価に必要不可欠な臨床情報となる。しかし一般的に開発途上国では、ルチーン記録のデータの質が系統的に検証されておらず、質向上へのシステム構築上課題となっている。 【目的】開発途上国の1 国であるケニアの地方型包括的産科ケア施設での分娩期記録のデータの質を検証し、データの質と影響要因を検討する。 【研究対象】ケニア西部ニヤンザ州の一般的な病院として選択したシアヤ県立病院、ボンド県立病院の2006 年1 月から12 月までの分娩台帳。 【研究デザイン】定量的・定性的方法による2 県立病院の分娩台帳データの後ろ向き比較。 【研究方法】周産期情報システムでの分娩台帳の位置づけを把握し、分娩台帳と、同時期の月間分娩報告書の保管状態を確認後、データの質を妥当性（relevance: R）、記入率（completeness: C）、正確性（accuracy: A）の視点で検証した。定量的には、1. 分娩台帳と月間分娩報告書への記入分娩数の比較（A）、2. 記入済・未記入セルのカウント（C）、3. 記入済データのうち明らかに不正確なデータのカウント（判読不能、誤コード化、範囲外、判読可能だが意味不明）（A）を行った。定性的には、1. 分娩台帳と月間分娩報告書のデータ項目の比較（R）、2. 分娩台帳記入法の説明の確認（C, A）、3. 各県の医療記録担当官、県立病院の産科入院棟助産師長、臨床助産師の代表者への個別面接を行い、分娩台帳データの質に影響する要因を抽出した。 【結果】2 県立病院の分娩台帳はケニア保健省のものではなく、産科的重要項目をいくつか含まなかった。この台帳のボンドへの供給が1 年に数か月中断し、ボンドでは全体的に未記入率が高かった。台帳の破れや表紙欠損が目立つ中、ボンドでは全ての分娩台帳と月間分娩報告書が存在したが、シアヤでは数か月分の紛失を認め、両病院で分娩台帳と月間分娩報告書への記入分娩数が異なった。データ項目のうち、ケニア保健省の台帳にない妊婦健診番号・出生証明番号と、ケニア保健省の台帳に含まれる HIV のパートナーと投薬に関する項目では、両病院で未記入率が高かった。記入済データのうち明らかに不正確なデータの割合は低く、居住地にのみ判読できるが意味不明のデータを含んだ。また分娩台帳と月間分娩報告書の項目は一致せず、台帳記入法の説明が不適切なため一見正確なデータでも不正確な可能性があった。個別面接からは、健康情報システムの組織的欠陥として分娩期・周産期に特有なもの（台帳記入の基となる有料の個別カルテを産婦が購入できないことなど）や健康情報システム全般の問題（上方機関による指導監督の欠如や記録の供給不備など）が指摘された。			

【結論】対象県立病院の分娩台帳データを定量的・定性的に検証した結果、データの質は低く、問題点は政府・州や県・病院・入院棟という異なるレベルの組織的欠陥に加え、データの臨床的重要度、不適切な記入法の説明やコード化という技術面にも起因すると考えられた。本研究では対象病院数が限られ、助産師の記録行動に影響する要因の詳細が不明であった点が限界であるが、代表的な開発途上国の一般的な地方型病院における分娩期の基本的データの質の実態とその関連要因のいくつかを指摘できた。今後はサンプル病院数を増やして助産師の行動要因にも注目し、分娩期記録のデータの質向上のためより普遍的な組織的・技術的欠陥の検証が必要である。 （論文審査の結果の要旨） 本研究は、途上国の1つであるケニアにおいて、地方型包括的産科ケア施設における分娩期記録のデータの質を、妥当性、記入率、正確性の観点から定量的・定性的に検証したものである。2 県立病院において、分娩台帳の保管状態、データ項目・記入方法・データの記録状態の調査・分析、関係者への個別面接が実施された。その結果、保健省作成の分娩台帳の不使用、1県立病院における台帳供給の断続性、記録類の保管の不備や紛失などの問題点が明らかとなった。記録データの分析からは、記入率の低い項目や不正確なデータの存在、潜在的な不正確性の存在が示され、また、個別面接からは、分娩に係る情報システムの系統的欠陥（カルテ作成が有料で全家族が購入できないこと、上部機関の指導監督の欠如など）が指摘された。以上、本研究では、対象県立病院の分娩台帳データの質が低いこと、その要因として、データ記録の標準化やデータ保管の不備、情報システムの系統的欠陥の存在が指摘され、さらにその考察から、助産師の記録行動に影響する要因の検討、研究デザインやサンプル設計のあり方、介入方法など、途上国における今後の分娩期情報のあり方に関する研究における重要な留意点についての示唆が得られた。 以上の研究は、途上国の地方型包括的産科ケア施設の分娩記録のデータの質とそれに影響する要因の解明に貢献し、国際母子保健の向上に寄与するところが多い。 したがって、本論文は博士（社会健康医学）の学位論文として価値あるものと認める。 なお、本学位授与申請者は、平成 24 年 8 月 27 日実施の論文内容とそれに関連した研究分野並びに学識確認のための試問を受け、合格と認められたものである。			
要旨公開可能日： 年 月 日 以降			